

すくすく のびのび いきいき

令和5年2月 第39号 発行：赤穂市教育委員会 ☎0791-43-6857 FAX 0791-43-6895

令和5年 赤穂市二十歳のつどい

民法の改正により令和4年4月から成人年齢が20歳から18歳に引き下げられましたが、大人になったことを自覚し、社会的に自立した一人の人間として自ら生き抜こうとする20歳の若者を祝い、励ますため「赤穂市二十歳のつどい」を開催しました。

令和5年1月8日(日)赤穂市文化会館赤穂化成ハーモニーホールに真新しいスーツや華やかな振袖を着た391人の若人たちが集まりました。

今年もコロナ禍での開催となり、マスク着用、入り口での検温をはじめとした、新型コロナウイルス感染症対策を講じたうえでの開催となりました。

開式前には二十歳のつどい実行委員会が作成した『恩師からのビデオレター』を上映し、中学時代にお世話になった先生方からの暖かい激励のメッセージを鑑賞しました。また、久しぶりに顔を合わせた友人たちと昔話に花を咲か

せ、楽しむ様子が見られました。

式典では、教育長からの式辞、市長ほか来賓の方からのお祝いの言葉をいただき、参加者は真剣なまなざしで耳を傾けていました。

また、2名の実行委員からこれまでの感謝の気持ちや未来に向かっての力強い決意が述べられました。

抱負を述べる代表



野中 海さん



末井 薫さん

メッセージ動画公開中!

赤穂市公式動画チャンネル-Channel AKO-では二十歳のつどい実行委員からのメッセージや赤穂市二十歳のつどいの様子を紹介しています。ぜひご覧ください。赤穂市公式YouTubeチャンネル https://www.youtube.com/channel/UCZ0Shc_sib2_s0oXhmuaGA



文化活動激励金交付事業を実施しています

令和4年4月から文化活動において県大会レベルの予選会を経て全国大会に出場・出品される個人・団体に対して『文化活動激励金』を交付しています。全国大会開催より前に申請いただく必要があります。対象となる大会等に出場される場合、生涯学習課 (TEL: 43・6858) までご連絡ください。詳しくは、ホームページをご覧ください。



<https://www.city.ako.lg.jp/edu/shougai/bunkagekirei.html>

創立100周年を迎え 赤穂市立赤穂幼稚園



今年100周年を迎えた赤穂幼稚園は、大正12年2月に婦人会の発案で、赤穂初の公立幼稚園として開園しました。当時は赤穂町公会堂の一階の広間を分割して部屋を作り、96人の子どもが入園しました。その後、本願寺別院、赤穂小学校旧校舎へと移り、手狭ながらも初めての幼児教育に職員と地域が手探りで情熱を注いできました。

沿革史には、戦争に関連する記述が出てきます。

昭和19年には「空襲警報が頻々とする。幼児在園中に警報出れば、直ちに部落別に引率して家庭に送り届ける。夜の場合は園長がはせ着けて園の警備に当たる」、昭和20年には「空襲奇烈 来る日も来る日も幼児は逃げることを仕事となす」(赤穂幼稚園沿革史より抜粋)との記載があります。子どもを取り巻く大人たちが子どもたちの命を慈しみの心でもって懸命に守ろうとされていたことがわかります。



戦後、お寺の屋根裏から、青い目の親善人形「ローズマリー」が発見されました。全国で「敵国人形」として焼いたり槍で突いたりする流れの中、誰かがこっそりと隠してくれたのでしょうか。

また、園児数が500人を超え、午前保育クラスと午後保育クラスに分けて保育していたこともありました。手狭な園舎の増改築を育友会や地区が全額負担したことも記されています。昭和40年に現在の場所に園舎を新築、平成28年に改築し現在に至っています。その間に預かり保育や3歳児保育がはじまり、幼稚園の形態は時代と共に少しずつ変化しています。それでも、子どもたちの笑顔や素直な心、こうなりたい!とまっすぐな眼差しでチャレンジする純粋さは、今も昔も変わらないと思います。



大正15年の園児



昭和28年の様子

加里屋川を守る会事業 花いっぱい運動



園の隣を流れる加里屋川沿いに、加里屋川を守る会と一緒に花を植える活動も行っています。通行する方々に楽しんでもらうとともに、親子で花を育て会話を弾ませる機会になっています。

100周年記念植樹祭

地域の方々や先生方の思いに支えられて、赤穂幼稚園は今日も子どもたちの笑顔と元気な声であふれています。

今年、100周年を記念してキンモクセイの植樹をしました。キンモクセイの香りを赤穂のまちに届け、次の100年も多くの人に愛され守られ続けてほしいと願います。



がんばれ! フレッシュ先生

令和4年度に採用された先生を紹介합니다。



亀井 美希 先生
先生になっての感想は?
子どもたちの笑顔や成長をみると本当に素敵な職業だと感じます。私も子どもたちと一緒に成長していきたいと思います。



末澤 香苗 先生
先生になっての感想は?
1日がとても早く感じます。その中で、子どもたちと一緒に学校生活が送れることに本当に感謝しています。



宮口 純奈 先生
先生になりたいと思ったのは?
スクールボランティアの活動で、憧れの先生に出会ったからです。子どもに寄り添える先生でいたいと思います。



常岡 由美 先生
最近うれしかったことは?
娘たちに「お母さんのお仕事って楽しそうね」と言ってもらえたことです。一緒に勉強する子どもたちにも、そう思ってもらえるように頑張りたいです。



本岡 京介 先生
先生になっての感想は?
赤穂の子どもたちはみんな優しく、何事にも一生懸命取り組む様子が見られます。僕自身も頑張っていきたいと思います。

地域と連携・協働した取り組み

「尾崎を学ぶ日(デー)」

学校では、かねてより児童がふるさと尾崎の歴史文化について知り、郷土愛を育むことを目標の1つとしてきました。ふるさとの良さを感じ、児童にふるさとへの愛着を深めて欲しいという学校の願いと、「もっと、子どもたちに尾崎のことを知って、好きになってほしい」、「今後の尾崎地区を担う人材を育てていきたい」という地域の願いが一つとなって生まれたのが「尾崎を学ぶ日(デー)」です。

尾崎地区ではもともと「まちづくり協議会」が希望者を募り、児童を対象として行っているウォークラリーがありました。平成30年度から、このウォークラリーを母体として、地域と連携

した学校行事として全校児童が参加するウォークラリーを実施することとなりました。その日は、午前中は尾崎地区の史跡等



ウォークラリーの様子

を探検するウォークラリーを、午後は学年ごとに尾崎を学ぶ授業を実施し、児童は1日どっぴりと尾崎の歴史や文化に浸ります。正にその名が表すとおり「尾崎を学ぶ日」となっています。コロナ禍となった令和2年度からは、ウォークラリーの実施が困難となったため、地域の方が作成してくださったクイズを行う形で実施しています。手作りのクイズは、年々グレードアップし、内容と温かさを増しています。また、地域のゲストティーチャーによる特別授業も実施され、5年生は「尾崎の文化」について、6年生は「尾崎の歴史」について地域の方から学んでいます。

「尾崎を学ぶ日(デー)」を通して、児童は地域の伝統文化や歴史にふれ、自分たちが住む尾崎への興味・関心が高まるとともに、誇りを持つようになってきています。地域と連携・協働して行うことにより、児童に「次の世代には自分たちが尾崎の歴史を伝えていく」という、地域を担う心が確実に育っていると感じます。

令和4年度 尾崎を学ぶ日(デー) (令和4年11月26日実施)

令和4年度は尾崎小学校の150周年とあわせて、特別バージョンとして実施しました。例年の名所クイズやゲストティーチャーによる特別授業に加え、地域の方による「尾崎塩濱おどり」の実演等もあり、いつも以上に学びの多い1日となりました。

創立150周年記念演奏会

150周年を記念しコーラス部が「校歌」と「浜鋤のうた」を歌い、恵比須大黒舞クラブが大黒舞を実演しました。

尾崎ゲストティーチャー①

地域の方により尾崎の民俗芸能である「尾崎塩濱おどり」を実演していただきました。

尾崎名所クイズ

クイズに関する説明を地域の方が楽しく分かりやすくしてくださいました。説明後、各教室において尾崎名所クイズにチャレンジしました。

尾崎ゲストティーチャー②

5年生と6年生にゲストティーチャーによる特別授業が実施されました。今年度も5年生が「尾崎の文化」について、6年生が「尾崎の歴史」について教えていただきました。



恵比須大黒舞クラブ

地域の方によるクイズの説明



尾崎の文化を学ぶ5年生

尾崎塩濱おどり

